

# セラミック九州

CERAMIC KYUSHU

佐賀県立九州陶磁文化館報  
Kyushu Ceramic Museum News Letter

No.58

編集・発行 佐賀県立九州陶磁文化館

発行年月日 令和4年(2022)3月17日

〒844-8585佐賀県西松浦郡有田町戸杓乙3100-1

TEL.0955-43-3681 FAX.0955-43-3324

<https://saga-museum.jp/ceramic/>

E-mail: [kyuto@pref.saga.lg.jp](mailto:kyuto@pref.saga.lg.jp)



## いろえ かちょうもんかくびん 〈色絵花鳥文角瓶(螺鈿漆器箱入り)〉

ひぜん ありた ひさとみ  
肥前 有田 久富

1840 ~ 1870年代

佐賀県立九州陶磁文化館 所蔵

角瓶の蓋に記された「ぞうしゅんていさん ぼぞう蔵春亭三保造」の「蔵春亭」  
とは、第10代佐賀藩主鍋島直正から有田の商人久富与次兵衛が与えられた屋号です。彼は1841年（天保12）から有田焼の海外輸出を本格的に再開し、佐賀藩から独占販売権を得ました。角瓶はインク壺のような形ですが、輸出先のヨーロッパでは茶筒として使用されティー・キャディー（Tea Caddy）と呼ばれています。類例は久富家が輸出拠点として支店を設けた長崎万才町遺跡の出土品にもみられます。同時代の主要な輸出品である螺鈿の箱に納められ、製品の企画から販売まで一貫して手掛けた久富家らしい新時代の輸出向け製品といえます。

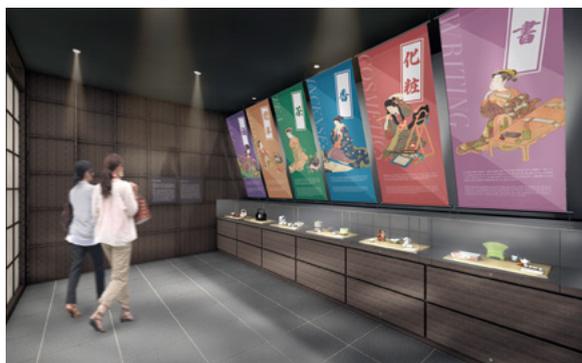
～令和4年(2022)4月9日 リニューアル・オープン～

# 常設展示「有田焼の歴史」

常設展示「九州陶磁の歴史」を、有田焼をはじめとするやきもの文化の素晴らしさを総合的に紹介する常設展示「有田焼の歴史」にリニューアルします。

有田焼の名品を映像や空間と組み合わせて展示し、歴史や文化などのテーマごとに部屋を巡りながら、有田焼の背景に広がる多彩なストーリーをお楽しみいただけます。

九州陶磁文化館を文化観光の拠点とし、やきものの魅力や可能性を国内外に発信するとともに、地域の史跡や窯元などへも多くの人が訪れるよう工夫をしています。



- 構成
- ROOM1 日本磁器の誕生
  - ROOM2 技術の革新
  - ROOM3 日本磁器の完成
  - ROOM4 海を渡る
  - ROOM5 暮らしを彩る
  - ROOM6 新時代の幕開け
  - ROOM7 今とこれから
- テーマ展示 有田焼Q & A  
有田焼ができるまで  
やきもの産地マップ  
有田焼のデザイン



色絵梅牡丹唐草文輪花皿  
肥前 有田 1650～1660年代  
佐賀県立九州陶磁文化館 所蔵  
柴田夫妻コレクション



染付花唐草文小皿  
肥前 有田 1610～1630年代  
佐賀県立九州陶磁文化館 所蔵  
柴澤コレクション





色絵花鳥文六角壺  
肥前 有田 南川原山 1670～1690年代  
佐賀県立九州陶磁文化館 所蔵



色絵唐獅子牡丹文十角皿  
肥前 有田 南川原山  
1670～1690年代  
佐賀県立九州陶磁文化館 所蔵  
佐賀県重要文化財



色絵花盆文透彫八角皿  
肥前 有田 1700～1730年代  
佐賀県立九州陶磁文化館 所蔵



色絵菊花唐花菱雲文菊花形鉢  
肥前 有田 1690～1710年代  
佐賀県立九州陶磁文化館 所蔵  
柴田夫妻コレクション



ARITAYAKI RHOMBUS WORKS  
野老朝雄(有田 李荘窯業所) 2019年  
佐賀県立九州陶磁文化館 所蔵



海鳴り  
青木龍山 1996年  
佐賀県立九州陶磁文化館 所蔵  
青木清高氏寄贈



釉下彩鶏花文大花瓶  
肥前 有田 香蘭社 1875～1880年代  
佐賀県立九州陶磁文化館 所蔵

～令和4年度企画展のお知らせ～  
リニューアル記念 特別企画展  
**海を渡った古伊万里**  
～ウィーン、ロースドルフ城の悲劇～

オーストリア、ウィーン近郊にたたずむ古城ロースドルフ城では、城主ピアッティ家により古伊万里を中心とした陶磁器が多数コレクションされ、城内を美しく飾る調度品として大切に伝えられてきました。

ところが、第二次世界大戦の戦禍によりその多くが破壊されてしまいました。ピアッティ家はそうした悲劇により破壊された陶片を破棄せず、城内の一室に陶片を集め、平和への願いも込めてインスタレーション

展示を行い一般公開してきました。

本展は、国内にある古伊万里の名品とともに、破壊された陶片を含むロースドルフ城所蔵の日本、中国、西洋の陶磁器コレクションを海外において初公開するものです。日本の修復技術による復元作品も展示し「再生」にも焦点を当て、波乱に富んだロースドルフ城コレクションの全貌を紹介します。

- 主 催 佐賀県立九州陶磁文化館
- 特別協力 ロースドルフ城ピアッティ家  
一般社団法人古伊万里再生プロジェクト
- 企画協力 株式会社キュレーターズ
- 会 場 佐賀県立九州陶磁文化館  
第3～5展示室
- 会 期 令和4年(2022)5月28日(土)～7月18日(月・祝)  
45日間
- 休 館 日 月曜日(7月18日は開館)
- 出 品 数 約180件(予定)
- 観 覧 料 一般600円(500円)  
大学生300円(200円)  
高校生以下及び障害者手帳又は指定難病受給者証をお持ちの方とその介助者(1名)は無料  
\*( )内は20名以上の団体料金
- 展示構成 第I部 日本磁器誕生の地-有田  
第II部 海を渡った古伊万里の悲劇  
-ウィーン、ロースドルフ城
- イベント ①記念講演会「ロースドルフ城所蔵の陶磁器が語る物語」講師：荒川正明氏(学習院大学教授・本展監修者)  
日時：6月18日(土)13:30～15:00  
会場：九州陶磁文化館 講堂  
\*要事前予約(詳しくは公式HPをご覧ください)  
②特別対談『「破壊」から再生へ～蘇った陶片たち』  
講師：繭山浩司氏(修復家) 荒川正明氏  
日時：6月19日(日)13:30～15:00  
\*要事前予約(詳しくは公式HPをご覧ください)  
③ギャラリー・トーク  
日時：会期中の毎週土曜日 14時から1時間程度  
(6月18日を除く)



色絵唐獅子牡丹文亀甲透彫瓶(部分修復)  
肥前 有田 1700～1730年代  
ロースドルフ城 所蔵



色絵松竹梅岩鳥文輪花皿  
肥前 有田 南川原山 1670～1690年代  
佐賀県立九州陶磁文化館 所蔵

～令和4年度企画展のお知らせ～  
 日本工芸会 陶芸部会50周年記念  
 特別企画展 未来へつなぐ陶芸 – 伝統工芸のチカラ

日本工芸会 陶芸部会が令和4年（2022）に50周年を迎えることを記念して、現代陶芸の展覧会を開催します。本展では、1950年代以降、日本工芸会で活躍した陶芸家の代表作品を紹介し、さらにこれからの「伝統」と美をその技術と表現で生み出している現在活躍中の陶芸家の作品を展示します。いわゆる人間国宝から若手作家による、日本のやきものの美しさを堪能いただける展覧会です。陶芸部会所属作家を中心に、137作家139作品を展覧します。

\* 日本工芸会陶芸部会とは

日本工芸会は昭和30年（1955）に発足した、重要無形文化財保持者（いわゆる人間国宝）を中心に、伝統工芸の作家、技術者などで構成された団体。陶芸部会は日本工芸会の陶芸作家による部会で、昭和48年（1973）以降「第1回新作陶芸展」（陶芸部会展）を開催、令和4年（2022）は設立50周年を迎えます。

- 主催 佐賀県立九州陶磁文化館  
公益財団法人日本工芸会  
NHKエンタープライズ九州
- 制作協力 NHKエンタープライズ中部
- 会場 佐賀県立九州陶磁文化館  
第3～5展示室
- 会期 令和4年（2022）9月23日（金）～12月4日（日）64日間
- 休館日 月曜日（10月10日は開館し翌11日休館、11月21日は開館）
- 出品数 139件
- 観覧料 一般600円（500円）予定  
大学生300円（200円）予定  
高校生以下及び障害者手帳又は指定難病受給者証をお持ちの方とその介助者（1名）は無料  
\*（ ）内は20名以上の団体料金
- 展示構成 I章 伝統工芸（陶芸）の確立  
II章 伝統工芸（陶芸）のわざと美  
III章 未来へつなぐ伝統工芸（陶芸）
- 主な陶芸家  
金重陶陽 加守田章二 藤本能道 松井康成 三輪休和 板谷波山  
六代清水六兵衛 楠部彌弌 荒川豊蔵 石黒宗麿 富本憲吉  
濱田庄司 中里無庵 井上萬二 江口勝美 十三代今泉今右衛門  
十四代酒井田柿右衛門 中島宏 庄村健 福吉浩一 吉田美統  
伊勢崎淳 市野雅彦 五代伊藤赤水 三代徳田八十吉 福島善三  
三輪壽雪 加藤孝造 鈴木藏 徳澤守俊 波多野善蔵 樂直入  
井戸川豊 石原祥嗣 十四代今泉今右衛門 庄村久喜  
十五代酒井田柿右衛門 鈴木徹 前田昭博 石橋裕史 中村清吾  
津金日人夢 中尾純 隠崎隆一 神農巖 伊勢崎晃一郎 渋谷英一  
中田博士 新里明士 見附正康 和田的



黄唐津叩き壺  
中里無庵 1966年  
東京国立近代美術館 所蔵



紅染大鉢「燦々」  
庄村健 2014年  
個人蔵

～令和3年度企画展の報告～  
企 画 展  
寄贈名品100選  
～肥前からアジアの陶磁器まで～

佐賀県立九州陶磁文化館は、昭和55年（1980年）に開館し、令和2年（2020）に40周年を迎えました。

開館以来、陶磁器及び陶磁器に関する資料の収集、保存、展示並びに調査研究を行うとともに、その教育普及を図り、併せて九州圏域の陶磁文化の振興に寄与することを目指してきました。40年間で収集した資

料は約3万点にのぼりますが、その9割以上は多くの陶磁器コレクター、陶磁器ファン、陶芸家の皆さまから御寄贈いただいたものです。

展示会では、貴重な寄贈品のなかから、優れた陶磁器作品や特徴ある陶磁器を100件厳選し、多彩な当館の陶磁器資料を展示しました。

- 主 催 佐賀県立九州陶磁文化館
- 会 場 佐賀県立九州陶磁文化館  
第1・2展示室
- 会 期 令和3年（2021）10月8日（金）  
～12月12日（日）58日間
- 休 館 日 月曜日（11月22日は開館）
- 出 品 数 100件
- 観 覧 料 無料
- 展示解説 学芸員によるギャラリートークを毎週土曜日に開催
- 展示構成 第1章 肥前佐賀の陶磁器  
第2章 佐賀の陶芸作家・デザイナー  
第3章 九州と日本各地の陶磁器  
第4章 アジアの陶磁器



展示解説



展示風景



展示風景



展示風景



染付山水文輪花大皿  
肥前 有田 1640～1650年代  
今泉吉郎氏寄贈  
重要文化財



灰釉彫文茶碗 銘 玄海  
肥前 1580～1600年代  
高取家コレクション  
佐賀県重要文化財



鉄絵緑彩松樹文大皿  
肥前 武雄 1620～1640年代  
中島宏コレクション  
佐賀県重要文化財



瑠璃釉青磁釉蓮鷺文輪花三足皿  
肥前 有田 1640年代  
小荷田謙一氏寄贈  
佐賀県重要文化財



色絵群馬文変形皿  
肥前 有田 岩谷川内  
白雨コレクション  
佐賀県重要文化財



青磁染付鳥文葉形三足大皿  
肥前 有田 1660～1680年代  
柴田夫妻コレクション



色絵桜花籠文皿  
肥前 鍋島藩窯 1690～1720年代  
鹿島鍋島家寄贈



色絵虎置物  
肥前 有田 1670～1690年代  
長瀬テツ子氏寄贈



三彩詩句文大皿  
肥前 長与 1790～1820年代  
溝口孝氏寄贈



象嵌花文碗  
朝鮮 15世紀  
溝上元良・正子夫妻寄贈



染付蓮東文大皿  
中国 景德鎮 15世紀第1四半期カ  
高取家コレクション



青磁彫花文鉢  
タイ シーサッチャナライ 15世紀  
荒木和子氏寄贈

肥前陶磁の見どころシリーズ（3）

## 2枚の染付梅鶯文皿

— 南川原山を模倣した内山 —



図1 染付梅鶯文波縁皿  
肥前 有田 南川原山  
1670～1690年代  
佐賀県立九州陶磁文化館 所蔵  
柴田夫妻コレクション



図2 染付梅鶯文波縁小皿  
肥前 有田 内山  
1670～1690年代  
佐賀県立九州陶磁文化館 所蔵  
柴田夫妻コレクション



図3 染付梅鶯文波縁皿  
肥前 有田 柿右衛門窯跡出土  
1670～1690年代  
有田町教育委員会 所蔵



図4 染付梅鶯文波縁小皿  
肥前 有田 幸平遺跡出土  
1670～1690年代  
有田町教育委員会 所蔵

有田で作られた2枚の染付梅鶯文皿。図1は南川原山で作られたオリジナルの製品、図2は内山で作られた南川原山の模倣品です。それぞれ南川原山の柿右衛門窯跡と内山の幸平遺跡から類似する陶片が出土しています（図3・4）。

色絵の柿右衛門様式に限らず、染付も流行の最先端だった南川原山。優れた染付製品を多く生み出しました。

図1も、型打ちした7寸の輪花皿に、細い線描とグラデーションの効いた精巧な濃みで、主文様には余白を生かした構図の梅鶯文様、口縁には花唐草文様を描いています。

一方、内山は南川原山の製品を適宜アレンジしました。

図2も成形は南川原の型打ちを模倣しつつ、口縁は波縁状に成形させるだけで花形の切り取りは省略しています。染付はやや太い線描きで、濃みは濃淡2種類

に単純化しています。主文様には南川原山とそっくりな構図でありながらも花数を減らした梅鶯文、口縁は単純な葉の連続文様に置き換え、要領良く普及品の小皿に作り替えています。

有田皿山では、南川原山を中心に優れた製品が生み出され、周辺の窯が技術やデザインを積極的に取り入れることによって、有田皿山全体で製品の質が高まっていった様子がうかがえます。

本稿の執筆にあたり次の方々に御教示いただきました。

大橋康二 鈴田由紀夫 村上伸之（敬称略）

### 参考文献

有田町1988『有田町史 古窯編』  
有田町教育委員会2002『幸平遺跡』

（山本文子）